１８９６年日食の百周年 近付く
CENTENARY OF 1896 ECLIPSE

木村　精二

①「１８９６年ノルウェーに、イギリス天文協会初の日食観測遠征隊」

さきごろ、イギリス天文協会ＢＡＡの機関誌 Journal (101,3,1991) に、上記のタイトル（原文は"Norway 1896: The BAA's first organized eclipse expedition"）の記事が載りました。今から96年前の８月９日、ノルウェーからソ連にかけて皆既日食帯が通り、その黒い太陽を目的として、165 人のアマとプロの天文家が、3211トンのノース・キング号に乗って30日間の観測旅行を行った記録です。日の出後１時間ほと経って高度１５度に見えるはずの太陽は雲に隠され、日食観測は不可能でした。これを斜め読みして連想したことがあります。それは１９６８年ソ連日食のこと。日本のアマチュアは日食遠征に関しては、７２年も後でした。１９９１年日食のときなど、近年の観光ブームに乗って、数え切れないほど多くの人がハワイ・メキシコ方面に出掛け、天文関係者が外国に日食観測に行くのも、日常の出来事になってしまいましたが、日本のアマチュアが団体を組んで外国に皆既日食観測行きを試みたのは、このソ連日食が最初です。その時は天候不良のためではなく、人為的な理由で皆既日食が観測できませんでした。ソ連日食と同じサロスに属する日食は、次回の１９８６年北大西洋上で消滅してしまいましたが、逆に４回遡ってみると（１９６８－１８×４＝）１８９６年日食であること、同時にそれから百周年が４年後にやってくること、に気づきました。１９６８年ソ連日食の計画と実行に関係した筆者は様々な想いで、１８９６年日食のノルウェー遠征記事を改めて読み直し、その最後に、次のように記してあるのが目に止まったのです。"...the eclipse shadow also passed over ..,Siberia,north-eastern China,the Sea of Japan, and finally Japan and the western Pacific. William H.M.Christie (Astronomer Royal) and Herbert H.Turner (Savilian Professor of Astronomy at Oxford) therefore headed an expedition to Japan(註) .., but here again cloudy weather prevented observation..."

②１８９６年日食百周年に向けての提案

１９６８年ソ連日食から四半世紀の来年（１９９３年）の秋、それを記念した集いが日食情報センターの主催で開かれると思いますが、お祭さわぎではなく、アマチュアによる過去２５年の海外日食観測の実績と反省をもとに、今後の日食観測行きについて、活発な論議が交わされることを、筆者は心から願っています。同時にそのミーティングのときに、３年後の１８９６年日食（上記のとおり、皆既帯はノルウェーからシベリアを通り日本に抜けてますから、やはりソ連日食と呼ぶべきでしょうか）の百周年を迎えるに当たって、何か記念事業を計画するための組織を検討されるよう、提案いたします。そのときまでに多少の参考資料を集めておくつもりです。

（註）グリニジ天文台長らは北海道の厚岸（港月町53番地）に布陣。厚岸にはリック天文台、理科大学、帝国大学、海軍大学校なども観測。そのほか来道した観測隊は、枝幸（アマスト大学、パリ天文台、東京天文台），紋別（中央気象台）等に布陣。なお、枝幸には記念図書館、観測記念柱(1978)がありますが、厚岸には何も残っていない模様です。